

2012年7月15日

エドモンド・ノルティ師

## 召し

聖書箇所: マタイ 4: 12-24 (聖書朗読)

4:14 それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。

4:15 「ゼブルンの地とナフタリの地、／湖沿いの道、ヨルダン川のかなたの地、／異邦人のガリラヤ、 4:16 暗闇に住む民は大きな光を見、／死の陰の地に住む者に光が射し込んだ。」 4:17 そのときから、イエスは、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言って、宣べ伝え始められた。4:18 イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。4:19 イエスは、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」と言われた。4:20 二人はすぐに網を捨てて従った。4:21 そこから進んで、別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父親のゼベダイと一緒に、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。4:22 この二人もすぐに、舟と父親とを残してイエスに従った。4:23 イエスはガリラヤ中を回って、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、また、民衆のありとあらゆる病気や患いをいやされた。4:24 そこで、イエスの評判がシリア中に広まった。人々がイエスのところへ、いろいろな病気や苦しみに悩む者、悪霊に取りつかれた者、てんかんの者、中風の者など、あらゆる病人を連れて来たので、これらの人々をいやされた。

今読んだ聖書箇所から、ヨハネが投獄されたことを聞いたころ、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」というヨハネの教えをイエスが継承したことがわかります。また、この同じ時期に、イエスが弟子たちを召し始められたこともわかります。「わたしについて来なさい」と語りかけられました。

イエスは、とてもシンプルな命令で弟子たちを召されました。けれども、そこには深い意味が込められていました。この短い命令には、ふたつの指示が含まれています。ひとつめの指示は、「来なさい」です。

### 来なさい:

主に愛されている皆さん、今日ここにいる私たちの多くはすでに主のもとに「来た」者です。そして、主が良いお方であることを見て味わったことがあります。しかし、私たちの家族や友人、同僚、そして世間一般の人たちはどうでしょう。そのほとんどは、イエスのもとにまだ「来て」おらず、イエスが主であり救い主であることを知らない人々です。誰かがその人たちのもとに「行って」イエスのことを伝え、イエスのもとへ導かなければなりません。

ローマ 10: 14-15 - 読みましょう。

10:14 とところで、信じたことのない方を、どうして呼び求められよう。聞いたことのない方を、どうして信じられよう。また、宣べ伝える人がなければ、どうして聞く

ことができよう。10:15 遣わされないで、どうして宣べ伝えることができよう。「良い知らせを伝える者の足は、なんと美しいことか」と書いてあるとおりです。

たった今読んだ聖書箇所は、信徒たちに向かって4つの質問を投げかけています。しかし要点は、罪人が救いの門をくぐるためには、「福音」が罪人に宣べ伝えられなければならないことです。

私たちには、来年に「会堂をいっぱいにする」という目標が与えられています。教会に人を誘うだけでは十分ではありません。私たちはそこから一步踏み込んで、罪人たちが来て人生を委ねるべきお方のことを知らせなければなりません。

救いのメッセージはとてもシンプルです。救いは、私たちの主であり救い主なるイエス・キリストの生誕、死、復活、そして昇天についてです。

イエスについて話すとき、次の聖書箇所が役に立ちます。

1. ヨハネ 3:16  
3:16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。
2. ヨハネ第一 5: 11-12
3. ローマ 3:23
4. ローマ 6:23
5. 箴言 14:12
6. ヘブライ 9:27
7. ローマ 10: 9-10  
10:9 口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。10:10 実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。

{2~6の聖書箇所は時間の都合上、割愛します。ご自宅でお読みください。}

ローマ 10:9-10 に、神の御国への門があります。自分の心で信じて、そこから一步踏み出して自分の口でそのことを告白するなら、あなたはキリストに属する者です。主の呼ばれる御声に従い、ひとつめの指示である「来なさい」という部分にしたがって行動したわけです。

イエスの命令には、ふたつめの指示がありました。それは、「わたしについて」です。

### わたしについて:

ついていくには、自発的に時間を作って、みことばを読み、祈り、神との交わりをもつことが不可欠です。

ローマ 8: 12- 17 {聖書朗読}

8:12 それで、兄弟たち、わたしたちには一つの義務がありますが、それは、肉に従

って生きなければならないという、肉に対する義務ではありません。8:13 肉に従って生きるなら、あなたがたは死にます。しかし、霊によって体の仕業を絶つならば、あなたがたは生きています。8:14 神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。8:15 あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。8:16 この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒に証ししてください。8:17 もし子供であれば、相続人でもあります。神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。キリストと共に苦しむなら、共にその栄光をも受けるからです。

みことばが真実なら、あなたは誰についていっているのでしょうか。誰があなたを導いているのでしょうか。そして、どこに導かれるのでしょうか。

愛する皆さん、キリストにある私たちの任務は、主についていくことです。教会にも指導者はいます。彼らには、私たちが義の道を歩めるよう手助けするという任務があります。しかし、私たちがついていくのはキリストであることをしっかり確認してください。このお方が「わたしについて来なさい」と言って私たちを召されたお方なのです。

#### **マタイ 20: 29**

20:29 一行がエリコの町を出ると、大勢の群衆がイエスに従った。

この聖書箇所から、目の見えない二人の人が目を癒していただいた後、群衆といっしょにイエスについていったことがわかります。この群衆は、二人がイエスのもとに行くのを止めようとした人々です。皆さんがイエスに従おうとするとき、あなたを止めようとしたり、じゃましたりする人があるかもしれません。けれども、ぶれずにイエスにつき従ってください。

#### **祈り**